



「五季」を感じさせる
秋月の豊かな自然

作陶生活 50 余年

秋月の自然あって こその私の作品

橘日東士（高13回、
朝倉市秋月在住）



でも、と東京の美術館、画廊を廻るうちに「やきもの」に魅かれ、人間死んで土に還るその「つち」へ新しい息吹きを吹き込む作品作りが崇高



葉が心和ませてくれます。特に10年に一度くらい、「これこそ紅葉」と思える時が持てることがあり、ただ感謝です。

も冴えて愉しくさえ感じます。毎年自然と繰り返し付き合っていく中で心も柔軟になり、一つ家に神仏を抵抗なく敬い、生活している民族も少ないのではないかと思ひます。

業が心和ませて
れます。特に
10年に一度ぐら
い、「これこそ
は紅葉」と思える
ものが持ること
があり、ただ感
動です。

日本には春夏
秋冬があり世界
でも恵まれてい
るといわれます
が、秋月に住ん
でいて毎年強く
は、四季のほか
れ五季と呼ん
ではないかなと
思えます。

当時、美術の熊野礼夫
先生に可愛がつていただい
たので、作品らしいも
のが出来ると、すぐ光風
会展に出品しました。そ
して意外と早く、20代の
うちに3連続受賞（最高
賞）して会友、会友賞
さらに会員へと船出した
た。

今は日本の美を求めて
日展のほうも5連続入選の頃に特選候補（最年少）に上りました。しかし、その頃から体調が崩れ始め急性膀胱炎、後縫韌帯骨化症に侵され、無理をする命を落とすと判断、諭しくなくては仕事ではないと自分を納得させ、それまで時間や制限されることに追われて

やつてきた仕事をキッパリと捨てようと思いまして。 そうなると色調であれ造形であれ作風が明るくなり、若い頃から年代ごとにモニユメント的な仕事をしてきたのが、今では綺麗な作品を目指し、綺麗さび、わびもあっていいのではと思いを深めています。

色彩も紫中心に藤桜桃梅など同時に咲いた百花繚乱のような作品や秋の山峡の紅葉の深まりを表現し、日本の美を追い求めていきます。自然界からはじけ出るような生命感には学ぶこと多々あります。

秋月は日本のふるさと、日本人の原風景の残る街です。秋月の自然なくて小学生の作品も生まれて来ないな、と思います。秋月へお越しの折は、小学生の作品と併せてぜひ街並みを見ていただきたいのです。

現在、博多の街を中心
に、ジャズボーカリスト
として日々歌をうたい、
ピアノを弾いています。
福高を卒業して20年か
かつて、ようやく、どう
にかこうにか音楽で生活
出来るようになつてきました。
大学の進路として
文学部を選んだ私にとって、
高校卒業時には思い
もしなかった現在です。

このような日々を送っ
ていますと毎日色々な方
との出逢いをいただきま
す。その中で福高出身で
あるということは、年を
重ねるごとに私にとって
重要な意味を持つようになつてきました。方々で
お逢いした諸先輩方は何
かにつけて気にかけてく
ださい、私の音楽活動に
おいても様々にサポート
くださいます。最近特に
感じますのは、女性の先
輩方の格好良さです。
情に厚く聴いて、しな

●筆者出没場所●弾き語り：毎週月・金曜日西中洲ピアノバー『ステラ』20時～23時半、毎週木曜日久留米通町『月のふくろう』20時半～23時、毎週土曜日ソラリア西鉄ホテル『トランプブルー』21時と22時（30分ステージ2回）。ライブ：毎月第4土曜日井尻『アベニュー』14時～16時、他。
詳細は <http://masumi-jazz.com>



やかでありながら力強く時に姉のように母のよう^にに接してくださる。その生き方は私に、ああ、私の人生またまだこれから40年間もバラ色だわ、なんて思^はせてくださるのです。

いつの日か、私も後輩女子に言えるでしょ^ううか。『あなた、たくさん遊びなさい、たくさん仕事しなさい。いつでも真剣に。たまにはちよつとの悪いことも許されるのよ。だって綺麗なだけの人生なんてつまらないじゃない。素敵な恋をしない。でも悪い男になさい。ひつかつても別にいいのよ、何かしらプラスになるもんよ』ああ、なんて素敵な福高女子。